



大法寺 三重塔 (国宝)

『見返りの塔』という名で親しまれている。1333(正慶2年)の銘文が発見されたことから、鎌倉末期の建立か。写真は、大法寺三重塔を北側から見たもの。屋根の曲線が、空に舞う鳥の羽根のように、のびのびと軽やかだ。しかし塔全体は、どっしりと安定し、いかにも荘重で崇高な感じを与えている。

よく見ると、この塔は、初層が特に大きい。二層・三層と、上に行くにしたがい、塔身の幅が小さくなっている。この初層から最上の三層にかけてだんだん減っていく割合を「逓減率(ていげんりつ)」という。時代の古い塔はこの逓減率が大きく、新しいほど小さくなるのが普通である。

しかしどの層も、屋根は大きく張り出さねばならない。そのため柱上の「粗物」は一層目は簡単な「二手先」という組み方だが、二層・三層は「三手先」という正規な組み方をして、より大きく屋根をはり出している。こうすることによって形に変化がつき、落ち着いた感じになる。このようなやり方は、奈良の興福寺の三重塔があるだけで、きわめて珍しい。

柱と柱は、すべて「長押(ながし)」という横材によって結ばれている点、一層・二層には「勾欄(かきり)」がある点、各層の四面についている扉が板扉である点など、みな「和様」という様式の特徴を示すもので、これらを安楽寺八角塔とくらべてみると、「禅宗様」との相違がよくわかる。

この塔の屋根は「檜皮葺(ひわだぶき)」である。古建築の屋根には、「瓦葺」「檜皮葺」「柿葺」「茅葺」などあるが、「檜皮葺」というのは、京都御所の屋根、出雲大社の屋根と同じで、最高級の葺き方だ。この屋根のきめの細かいしっとりした肌合いは、上品な「反り」の曲線とともに、一そう塔の格調を高いものにしている。

また第一層の天井に、創建当時の絵が残っている。壁面にも描かれていたことがわかり復元模写された。680年前の壁画(復元)である。(青木村郷土美術館にて展示)

- 高さ：61寸2寸7分 (18.56 m)
- 建坪：初重 4坪0合6勺
- 二重 2坪3合5勺
- 三重 1坪7合5勺
- 計 8坪1合1勺

日理駅と浦野駅・東山道推定ルート



写真上・資料提供：上市市教育委員会

この資料によると、浦野駅はもっと青木村寄りになり、なおかつ、道は平坦なところを直線的に結ばれていると推定される。

小泉地籍(小泉条理水田跡遺跡)では、平成17年10月発掘調査が行われ、道路状遺構(幅約13.5m・側溝幅約1.7~2m、深さ約31cm)と土器小片が発見された。



浦野駅 (うらののうまや)

青木村の浦野駅跡と推定される場所の案内建物と復元したモデル道。



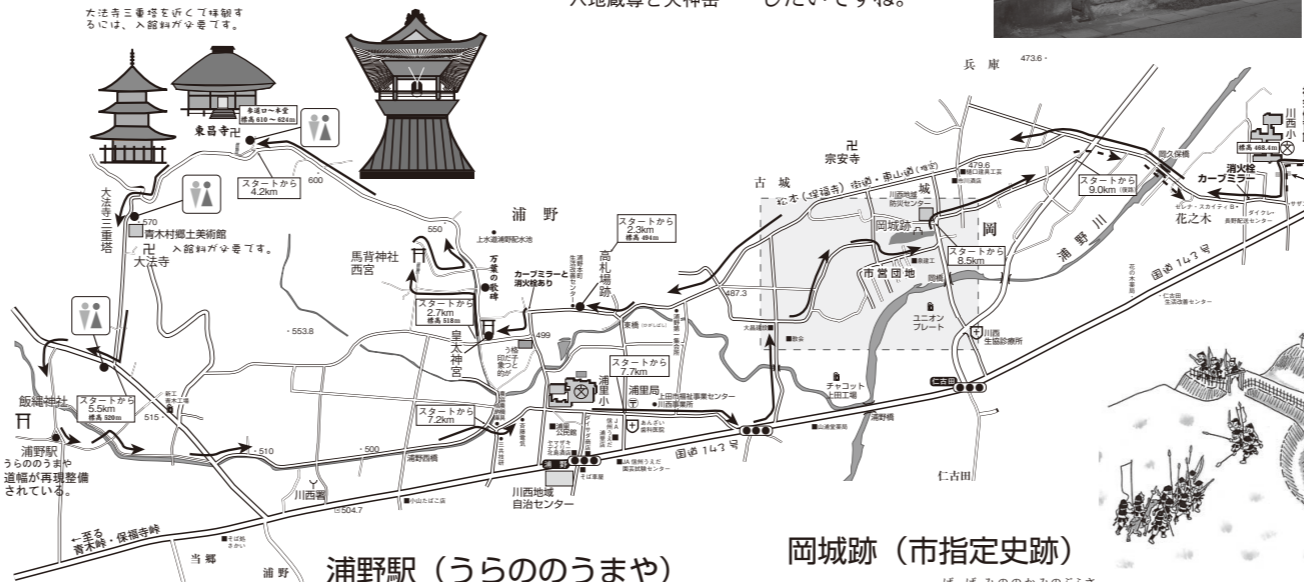
写真は、東昌寺山門



大法寺三重塔を近くで確認するには、入館料が必要です。



山門下の六地藏尊と夫神岳



岡城跡 (市指定史跡)

武田信玄の重臣馬場美濃守信房の縄張によって、天文年間末に築かれたと言われる平城である。外堀の外周に武田氏流築城術の特徴である三日月濠を有した丸馬出しを持っている。室賀峠へ通じる街道をおさえる位置に築かれており、1553(天文22年)村上義清の葛尾城を落としてから1560(永禄3年)松代の海津城が築かれるまでの6年間、武田勢の川中島進出の為の重要な前進基地の一つであったと考えられる。

岡城は、浦野川左岸の段丘上に築かれた。城跡は大半が住宅地や耕作地に変貌しているが、二ノ丸の一部が岡城公園となって整

浦野宿と万葉歌碑



今から400年ほど前、上田から松本への保福寺道が整備され山麓にあった浦野、入馬越、中馬越の集落がその沿道に移され、移住した三つの集落は馬越村(江戸時代)となり、保福寺道の宿場となって浦野宿と呼ばれた。

青木方面では保福寺道は松本街道(浦野道)、松本方面では江戸道(江戸街道)などと呼び、早朝に松本を発った参勤交代の行列が浦野宿で宿泊する習わしになっていた。江戸時代のこの街道は多くの旅人でにぎわいましたが、米、酒、薪、たばこ、絹、塩、瀬戸物、魚などの諸物資も数多く運ばれ、明治に入って浦野村となり、浦野は明治の初年ごろまで栄えました。今もその面影をとどめる家並が残り、商業と旅客で繁栄した浦野を偲ばせてくれます。

- さて、
- 彼(か)の児(こ)ろと 寝(ね)ずや(や)なり(なり)な(な)む(む)
 は(は)だ(だ)薄(うす)き(き) 宇(う)良(ら)野(の)の(の)山(やま)に(に) つ(つ)く(く)月(つき)片(か)寄(よ)る(る)も(も)
- ①あの子と今夜は寝ずに終わるのが、宇良野の山に月が傾いたなあ
 ②愛しい人(女性)の所に行きたいのだが、浦野の山に月が傾いて夜明けが近いと嘆いている …と解釈はそれぞれ
 ▷はだ薄は枕詞 末梢(ウラ)の意からウラ野にかかるのか

万葉仮名で書かれているこの歌は、巻14の東歌の相聞に載っている。中でも秀でたものとされている(3565)。

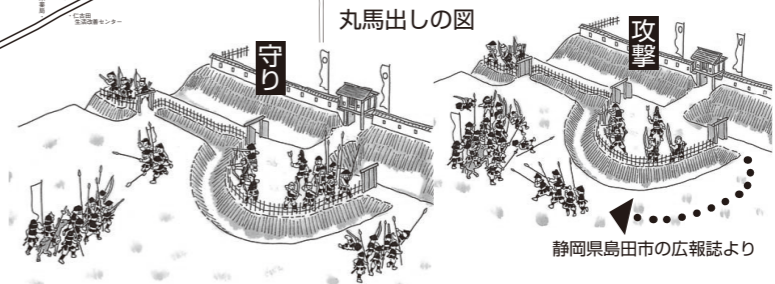
宇良野は浦野を指しているとみるのが妥当で、この地方に住んでいた若者の詠じたものが、伝承され、東歌として万葉集に収録されるに至ったものか。この一首によって、浦野の地は広く歌人・学者に知られるようになり「宇良野」が浦野の地であるという有力な説によって、古代に東山道が通り、その宿駅として栄えていた「浦野駅(うらののうまや)」の近く、浦野の集落から東昌寺へ登る仁王門に入った所に1976(昭和51年)万葉歌碑が建立されました。

また、保福寺峠には、14巻東歌の3399も石碑が建立されよく知られています。

信濃路は 今の壱道刈(きり)株(ぐら)に 足踏(あしふみ)まし(まし)む(む)な(な) 履(は)著(き)け(け)わ(わ)が(が)夫(と)



丸馬出しの図



静岡県島田市の広報誌より

- ① 武田流の城造りの典型 武田氏の城造りの特長は、三日月堀で馬出し平坦地がセッテになった丸馬出しです。
- ② 地形に守られた「後の堅固」の城 大手側(表)は平城ですが、からの手(裏)側は浦野川が流れる自然地形によって守られていました。
- ③ 縄張りの傑作 縄張りとは、曲輪や堀、通路などの配置のことです。

備われて残っており、その北側に残る堀跡は非常に規模が大きい。本丸跡は団地になっていて、土塁などはほとんど消滅しているが、西側の堀跡が宅地の横に残っている。丸馬出しと三日月堀は基本的に消滅しているが、東側の三日月堀だけは、わずかに空き地の中にその形態を止めている。

二重の堀、3個の三日月堀、大井戸は明らかだ。

城跡としては破壊が進んでいるものの、特に二ノ丸の土塁や堀が良好に残り、武田信玄時代の大規模な初期の平城で、後世の改修を受けていない城は希少であり、その価値は高い。

上田市体育協会 令和元(2019)年5月22日(水) 魅力再発見ウォーキング in 浦野

のどかな里山風景と浦野宿 東山道(推定)や浦野駅(うらのうまや)まで歩く 初夏の散歩道 コース(約10km)

主催 (一財)上田市体育協会 健康・体力向上委員会 共催 上田ウォーキング協会 後援 上田市教育委員会

集合 川西社会体育館 駐車場

スタート 9:00
終了 13:00(予定)

大法寺三重塔を近くで拝観するには、入館料が必要です。

東昌寺 参道口~本堂 標高610~624m

青木村郷土美術館 入館料が必要です。

この後、公衆お手洗いはありませんので、ご注意ください。川西消防署か自治センターかお店

車に注意!! 左右確認して

川の橋を渡って、川沿いの農道を歩く。

浦野駅(うらのうまや)



大法寺 574

東昌寺 610

川西署 505

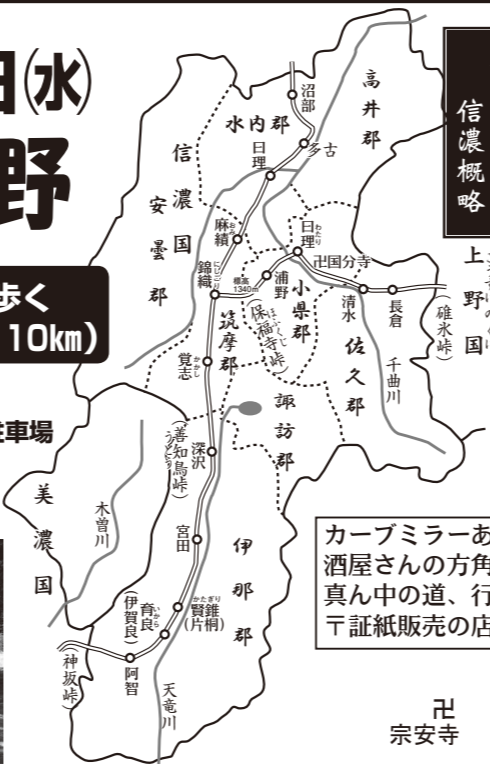
馬背神社 524

皇大神宮 506

浦里小 487

岡城跡 472.8m

東山道
信濃概略



カーブミラーあり 酒屋さんの方角ではなく真ん中の道、行く手右に干証紙販売の店あり

左のカーブしている道へ

車に注意!! 左右確認して

この辺から、掘らしきものが、視界に... お見逃しなく!

一度、国道に出ます

この道しるべを左に

東山道 浦野駅(とうさんどう うらのうまや)

東山道は702(大宝2年)開通。上田・小県地方には、浦野駅・日理駅という二つの駅があった。

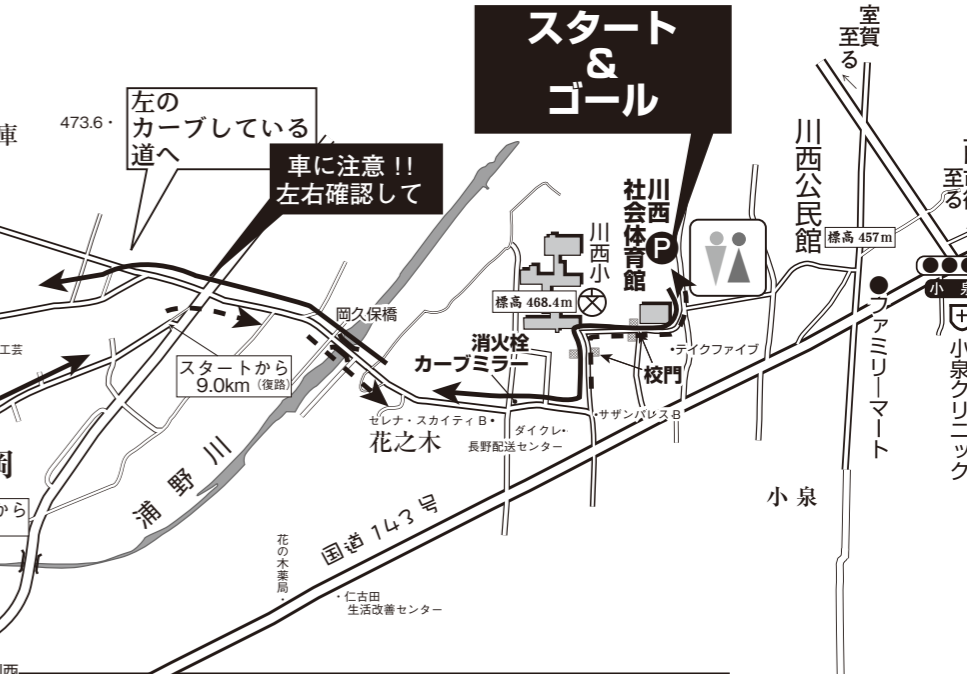
浦野駅には馬が15頭常備。普通の駅は10頭常備が、この浦野駅の常備数が多いのは、もちろん保福寺峠をひかえていたためなのか、保福寺峠の向う側にあった錦織駅(四賀村:今は松本市)も15頭の常備。その浦野駅は、大法寺の南方の平坦地にあったと推定されている。ここに「本宿」(元宿か)という小字名が残っており、何よりも東山道の開通した

大宝年間に創立されたという古利大法寺(昔は大宝寺と書いた)があることが、その想定の根源となっている。駅には駅寺があるのが通例で、大法寺(大宝寺)は浦野駅の駅寺と考えられる寺である。

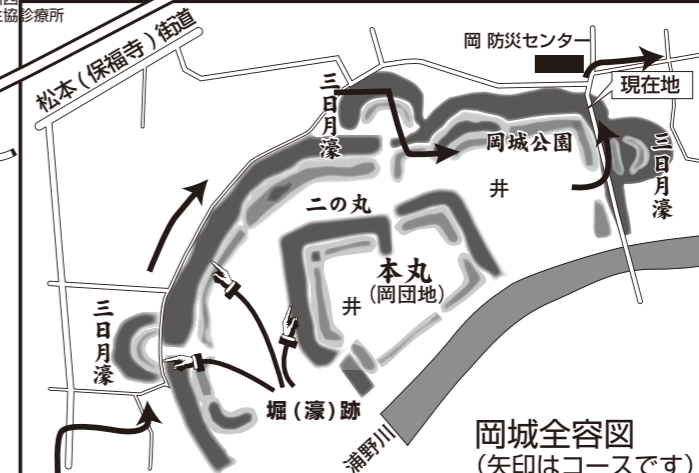
1975(昭和50年)春・秋の2回にわたり、この推定浦野駅跡の発掘の結果、120にあまる柱穴とともに、おびただしい土器等が出土し、おおよそ平安期のものであることから、このあたりを浦野駅跡とする推定も、可能性がきわめて濃いものとなっている。いま青木村ではその一部を保存している。

※諸説があるので、断言することはできないが、想像をめぐらしロマンをかき立てることは否めない。

スタート & ゴール



現在地 着いてから、気が付いたのでは遅いのでご注意ください!



★自家用車の中には貴重品を置きっぱなしにしないようにしましょう。車上荒らしにご注意を!!

建物名 標高 距離だけではなく高低差も参考にしてください。

＜資料作成に当たり、参考にさせていただいた書籍や施設等＞
上田市誌・上田市文化財報告書第101集市内遺跡・青木村観光協会編大法寺三重塔・上田地域データベース「上田情報」・上田市立信濃国分寺資料館・上田市教育委員会・上田市立博物館・上田市健康推進課編上田市ウォーキングコース/カントリーコース・静岡県島田市広報